

【 3 年 】

各教科共通

- ◎自己で選択・決定・調整できる授業を行い、主体的な児童の姿をめざしていく。
- ◎読み解く力〈6つの領域〉を土台とした授業を構成する。
- ◎教科書分析を行い、言葉にこだわり、「読むこと・書くこと・話すこと」の時間を重視する。

国語

■児童の状況	○叙述をもとに登場人物の気持ちを考えることができる児童が多い。 ○説明文において段落を意識して読み、内容を捉えることができる児童が多い。 ○読書の時間を楽しむ児童は多いが、読書内容、読書量に偏りがある。 ●漢字学習には、こつこつ取り組むが、既習の漢字を文章の中で正確に使うことが苦手な児童が多い。 ●自分の思いや考えを文章で分かりやすく書くことに苦手意識のある児童がいる。
■指導についての課題	・語彙を増やし、自分の考えを文章としてまとめることができるような指導の工夫 ・習った漢字を正しく使って文章を書くことができるような指導の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	・毎時間、めあてを提示し、振り返りとの一体化を図る。 ・漢字学習は、筆順や熟語を丁寧に指導し、繰り返し復習を行っていく。 ・教科書に出てくる言葉の意味を、国語辞典等で調べる時間を確保する。 ・短作文や日記、説明文を書いたり、視写したりする機会を増やす。 ・読み聞かせや電子図書等、読書活動を工夫し、読書の時間を確保する。

算数

■児童の状況	○一人一人の習熟度に応じた少人数クラスで学習を進めている。 ●文章題の内容が理解しきれないためにつまずくことが多い。 ●九九やひき算の繰り下がりについて習熟が必要な児童がいる。 ●自分の考えを表現したり説明したりする力を育てていく必要がある。 ●時計を読んで「〇分たった。」と答えられる児童が少ない。
■指導についての課題	・文章問題の正しい理解と立式 ・苦手な児童への個別指導の時間確保
■授業改善に向けての具体的な方策	・毎時間、めあてを提示し、振り返りとの一体化を図る。 ・自分の考えを図や表、式、言葉を使って表現し、説明する活動を多く取り入れる。 ・自分の考えが書けない児童には、ワークシートを用意したり、教科書の考え方をヒントにするよう声をかけたりして支援していく。 ・文章題を言葉に着目させ、何を求められているのか明らかにしてから、問題解決を行うよう指導する。 ・常に時計を意識させ、時間の経過を理解させる。

社会

■児童の状況	○地図や資料を見て、様々なことに気付き、意欲的に学習に取り組むことができる。 ●学習した内容を、自分の言葉で分かりやすくまとめることが苦手な児童が多い。 ●グラフや表などの資料から、必要な情報を正しく読み取ることに個人差がある。
■指導についての課題	・資料の正しい読み取り方の指導の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	・毎時間、めあてを提示し、振り返りとの一体化を図る。 ・資料から分かったことを自分の言葉でまとめていくような場を設定する。 ・資料（グラフ・表など）の読み取り方を丁寧に指導する時間を確保する。

理科	
■児童の状況	○観察や実験に意欲的に取り組んでいる。 ●観察や実験において、細かいところまで記録する活動や、結果を基に考察する活動では、個人差がある。
■指導についての課題	・見通しをもって実験をするための事象提示や問題づくりの工夫 ・予想を立てて、結果を考察することが苦手な児童に対する指導の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	・毎時間、めあてを提示し、振り返りとの一体化を図る。 ・事象提示を工夫し、児童の意欲や関心を高めながら問題づくりをすることで、見通しをもった実験ができるようにしていく。 ・自然事象の差異点、共通点に気付くことができるように提示の仕方を工夫する。 ・生活経験など根拠を明らかにして予想ができるように指導していく。 ・自分の予想と比べて、結果について考察できるように指導していく。

体育	
■児童の状況	○体を動かすことが好きな児童が多い。 ○一時間毎や単元終了後に自分の技能や運動の工夫等についての振り返りができる。 ●技能面における個人差が大きく、目標達成ができない児童がいる。
■指導についての課題	・スモールステップの指導の工夫 ・ペアや小グループでの学び合い
■授業改善に向けての具体的な方策	・スモールステップの場を設定して、技能のポイントを児童が教え合うような活動を取り入れる。 ・グループ活動を多くし、学び合い、協力する力を付けるようにする。

総合的な学習の時間	
■児童の状況	○体験的な学習課題に取り組むことには意欲的である。 ○2学期は「豆」について調べた情報を発信した後、「食のひみつをさぐろう」という単元で、「食」についてグループで追究し、発表していく。 ●自分から問題解決的な学習を進めることは難しい。
■指導についての課題	・活動の見通しをもたせるための工夫 ・タブレット端末を活用した指導の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	・問題を解決するために、どのような解決方法があるか考える時間を取り、見通しをもたせる。 ・毎時間のめあてや振り返りは、活動記録カードに記録させ、継続した学習とする。 ・インターネットの使い方をはじめ、学び方を学ぶ時間を大切にする。

特別の教科 道徳	
■児童の状況	○教材の主人公の心情や考え方に対して、素直に受け止め、考えることができる。 ●多様な考え方や見方があることへの気付きが十分ではない。
■指導についての課題	・道徳的価値の大切さに対する気付き ・多様な見方があることへの気付き
■授業改善に向けての具体的な方策	・葛藤場面を取り上げ、友達と話し合うことで、多様な意見に触れさせ、多角的に価値理解を深めていく。 ・ペアやグループでの話し合い活動を取り入れ、学級全体での交流へと広げていく。

外国語活動	
■児童の状況	○外国語を使ったゲームをしたり、単語を覚えたりして、楽しく外国語に親しんでいる。 ●不安から消極的になってしまい、発話量が少ない児童がいる。
■指導についての課題	・より楽しく主体的に取り組めるような活動や指導の工夫

	・ ペアやグループでの活動の工夫
■授業改善に 向けての具体的な方策	・ ゲームや歌で楽しみながら外国語に親しむことができるようにする。 ・ 短く簡単な言葉で指示を出すようにする。 ・ 外国語で友達と交流したり、相手の話すことを聞いたりできるような場面を多く取り入れる。